

立木観音立木山安養寺

立木観音立木山安養寺は、大津で最も人気のある寺の1つです。人里離れた境内は瀬田川の横にそびえる山の標高の高いところにあり、大津市の中心部の喧騒からは離れていますが、バスで簡単にアクセスできます。山の麓から最短距離で登る道は曲がりくねっており、800段を超える不規則な形の階段が続き、像や石灯籠が立ち並んでいます。約30分で登ることができます。また、最短距離ではありませんが、よりなだらかな道で立木観音立木山安養寺に行くこともでき、こちらは約90分かかります。山は杉の木で覆われ、登ると麓の交通や川の音は消えて、代わりに鳥のさえずりが聞こえてきます。

立木観音立木山安養寺は、有名な僧で仏教の真言宗の開祖である空海（774-835、死後弘法大師として知られる）が創建しました。伝説によると、空海の前に白い鹿が現れ、空海はその鹿に乗って瀬田川を跳び越え、川の向こう岸に見えた神聖な光を放つ木のところまで行きました。空海が鹿に乗ったまま山頂まで行くと、鹿は慈愛の菩薩である観音に変身しました。

立木観音立木山安養寺は観音を本尊とし、本堂には空海が彫ったと言われている1.6メートルの観音菩薩の木像が安置されています。この像は、山腹の神聖な木の幹から掘り出され、高さは空海の身長と同じであると言われています。

2箇所で観音に祈りを捧げることができます。1つは本堂の正面、もう1つは本堂の裏側の小さなエリアで、観音菩薩像が安置されている場所により近いところです。観音菩薩像は一般公開されていませんが、立木観音立木山安養寺の入り口には魔法の鹿に乗る空海をかたどった別の像があります。

本堂の裏側で地面が高まったところには、立木観音立木山安養寺の鐘と立木観音立木山安養寺の鎮守社である奥の院があります。本堂と同じく、参拝者は奥の院の正面でも裏側でも祈りを捧げることができます。